



糖尿病網膜症とDME

～その病態と実臨床における治療マネジメント～

日時 2023年7月1日(土) 7:45～8:45

会場 第2会場 (札幌コンベンションセンター 1階 大ホールB)

座長

石田 晋 先生

北海道大学大学院医学研究院 眼科学教室 教授



【座長のことば】

糖尿病網膜症あるいはその合併症である糖尿病黄斑浮腫(DME)の病態は複雑で、血管内皮増殖因子(VEGF)のみならず多彩な炎症性サイトカインが関与することから、実臨床では、ステロイド薬などによる治療介入や、光凝固治療あるいは手術など、多方面からのアプローチが必要になります。

そこで本セミナーでは、小沢洋子先生(藤田医科大学東京 アイセンター)より、基礎研究の視点から病態に関する知見について、また、杵本昌彦先生(山形大学)には、実臨床の視点より多方面からのアプローチによる治療マネジメントについてご講演をお願いしました。糖尿病網膜症とDMEについて、基礎と臨床の両面からの知見を共有できるセミナーです。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

講演 1

糖尿病網膜症に関わる炎症のメカニズム

小沢 洋子 先生

藤田医科大学東京 先端医療研究センター
臨床再生医学講座 アイセンター 教授



講演 2

糖尿病黄斑浮腫

実臨床で実行可能な治療マネジメント

杵本 昌彦 先生

山形大学大学院医学系研究科医学専攻
眼科学教室 教授





糖尿病網膜症とDME ~その病態と実臨床における治療マネジメント~

日時 2023年7月1日(土) 7:45~8:45

会場 第2会場 (札幌コンベンションセンター 1階 大ホールB)



座長

いしだ すすむ

石田 晋 先生

北海道大学大学院医学研究院 眼科学教室 教授

【略歴】

1984年 筑波大学附属駒場高等学校 卒業
1990年 慶應義塾大学医学部卒業、同眼科 研修医
1994年 佐野厚生総合病院眼科 医長
1995年 慶應義塾大学医学部眼科学教室 助手
2001年 米国ハーバード大学眼科 研究員

2004年 慶應義塾大学医学部眼科学教室 講師
2005年 慶應義塾大学総合医科学研究センター 網膜細胞生物学研究室 主任
2008年 慶應義塾大学医学部稲井田記念抗加齢眼科学講座 准教授
2009年 北海道大学大学院医学研究院眼科学教室 (旧 医学研究科眼科学分野) 教授

講演① 糖尿病網膜症に関わる炎症のメカニズム



演者

おざわ ようこ

小沢 洋子 先生

藤田医科大学東京 先端医療研究センター 臨床再生医学講座 アイセンター 教授

【略歴】

1992年 慶應義塾大学医学部 卒業・眼科学教室 入局
1995年 佐野厚生総合病院眼科 医長
1997年 慶應義塾大学医学部眼科学教室 網膜硝子体フェロー
1998年 東京都済生会中央病院眼科 網膜硝子体フェロー
2001年 慶應義塾大学医学部生理学教室 国内留学
2004年 川崎市立川崎病院眼科 副医長
2005年 慶應義塾大学医学部眼科学教室 助手
2008年-2020年3月 慶應義塾大学医学部眼科学教室 専任講師

2009年 慶應義塾大学医学部眼科学教室 網膜細胞生物学研究室 チーフ (兼任)
2016-17年 Schepens Eye Research Institute (Harvard Medical School) Visiting Scholar (兼任)
2020-23年 聖路加国際大学 研究教授 (2021-2023 臨床教授)
2020-23年 聖路加国際病院 眼科部長
2020年 慶應義塾大学医学部眼科学教室 特任准教授 (兼任)
2023年 藤田医科大学東京 先端医療研究センター 臨床再生医学講座 アイセンター 教授

糖尿病網膜症や糖尿病黄斑浮腫(DME)の病態に炎症が関与することは古くから知られます。血管造影で漏出が検出されたり、眼内に炎症細胞が観察されたりすると、その関与の意義深さを臨床の場でも感じます。最近では硝子体手術や抗VEGF療法の発展により、多くの症例の治療が可能になりましたが、どの症例でもよい反応が得られるとは限らないことも事実です。その背景には炎症による多様な病態の修飾があることが考えられます。

そこで本講演では、これまでに示された糖尿病の網膜病態に関与する炎症のメカニズムを解説します。この基礎知識の整理が、日常診療における個々の症例の多様性への対応に役立てれば幸いです。

講演② 糖尿病黄斑浮腫 実臨床で実行可能な治療マネジメント



演者

すぎもと まさひこ

松本 昌彦 先生

山形大学大学院医学系研究科医学専攻 眼科学教室 教授

【略歴】

1996年 三重大学医学部 卒業
1996年 三重大学医学部眼科学教室 入局
2003年 愛知県がんセンター 発がん制御研究部 任意研修医
2004年 三重大学大学院 修了
2005年 三重大学医学部眼科 助手

2007年 三重大学医学部眼科 講師
2008年 米国クリーブランドクリニック コール眼研究所Post-doctoral research fellow
2011年 三重大学大学院医学系研究科 臨床医学系講座 眼科学 講師
2022年 三重大学大学院医学系研究科 臨床医学系講座 眼科学 病院准教授
2023年 山形大学医学部眼科学 教授

抗VEGF薬は現在のDME治療の第一選択肢である。しかし実臨床において、抗VEGF薬のみで治療をマネジメントすることは困難であり、必ずしも万能ではない。従来用いられていた局所レーザーによる原因血管の凝固や、硝子体手術による網膜牽引解除が有効である症例を経験することはままある。このような多方面のアプローチが可能であることはDME治療の大きな特徴である。とくに、VEGF制御とともに炎症制御という観点からのステロイド治療は非常に理にかなっており、しばしば著効する。海外では徐放性ステロイド製剤が認可されているが、これと異なり本邦ではトリアムシノロンが唯一認可されている。

本講演では、これら治療の有効性について講演する。